

# 座席行動の研究(Ⅳ)

—忌避された座席位置とその忌避理由—

## A Study of Seating Behavior (Ⅳ) : Avoided Seat Position and Reasons for Avoidance.

北川 歳昭

Toshiaki Kitagawa

教室の各座席位置に対して、学生は明確な好悪感情のヒエラルキーを形成している。すなわち、学生は、座席位置への好悪感情、いかえれば正負の指向性(座りたい、座りたくない)の強さに従って着席位置を決定していると考えられる(北川, 1980)。

負の指向性いわゆる忌避性についての実証的な研究はほとんどない。筆者は、以前の報告の中で、①忌避された座席位置(以後、忌避位置とする)は、最前列・最後列・左端列・左右中央列・右端列の5列による6交点に選択が集中する特徴的な分布を示すこと、②忌避位置と通常位置との間にはかなりはっきりした負の相関が認められることを指摘した(北川, 1979; 1980)。

本研究の第1の目的は、上記の忌避位置の特徴を新しいデータで再確認することである。

さて、昨年(1982)の報告の中で、筆者は、通常位置の選択理由の因子分析から、「受講積極性」、「快適環境優先性」および「受講不熱心・友人関係優先性」の3因子を抽出し、座席位置に対する正の指向性が3因子に対応して、前列・左右中央指向、左右端列指向および後列指向の3類型に分けられ、さらに、教室の座席位置が3因子に対応した3区域に分けられることを示した。

本研究の第2の目的は、同様の方法を忌避位置の選択理由(以後、忌避理由とする)の分析に適用して負の指向性を類型化するとともに、座席位置に対する正負の指向性から、教室という座席行動空間の中にひそむ見えない(つまり心理的な)構造の解明を試みることである。

## 方 法

### 〔1〕調査の対象と時期

短大保育科1年生3クラス159名(全員女子)に対して、1979年12月に「座席行動調査」(記名・質問紙形式)を実施し、全員の資料を統計処理した。

### 〔2〕座席行動調査

クラス単位(講義形式)の授業の時の座席を想起して各質問項目に答えるよう教示した。

1) 通常位置 「あなたがいつも座る座席はどこですか」という質問に対して、教室の座席を7×7の49区画に分けた図(図1を参照)を示し、その中から3区画を「通常位置」として座席区画番号(11~17)で答えさせた。さらに、「その3区画のうち、もっとも座る回数が多い座席はどこですか」と質問して「代表通常位置」と答えさせた。

2) 忌避位置 通常位置と同様に、「あなたが座りたくないと思っている座席はどこですか」という質問で「忌避位置」を3カ所、さらに「3つの区画のうち、もっとも座りたくない

座席はどこですか」と問うて「代表忌避位置」を答えさせた。

座席位置は、座席区画を座標とみなして、前後方向を1.0（最前列）から7.0（最後列）、左右方向を1.0（左端列）から7.0（右端列）と重みづけして数量化した。座席位置指標としては前後性（FB）、左右端性（LS）および対教師距離（T）を採用した。指標値は、座席位置の前後をM、左右をNとすれば、 $FB=M$ 、 $LS=|N-4|$ 、 $T=\sqrt{M^2+(N-4)^2}$ の換算式で算出した。

3) 忌避理由 自由記述法による予備調査（1978年12月）にもとづいて作成した24の忌避理由項目を示し、「もっとも座りたくない席を答えていただきましたが、その理由について、あなたの感じていることに近いところに○印をつけてください」と教示して、代表忌避位置の選択理由について、「まったくそうだ」から「まったくちがう」までの7段階評定をさせた（表1参照）。

4) 最適忌避理由 「以上の24項目のうち、あなたの気持に一番近い項目を1つだけ選んでください」と教示して「最適忌避理由」の項目番号を答えさせた。

### 〔3〕教室の状況

学生の使用する教室のほとんどは、教卓に向って左側が南または西で、左右とも窓になっており、教室の座席数は70～100、座席は並列配置で教卓と対面しており、座席選択は学生の任意であった。

## 結 果

### 〔1〕通常位置と忌避位置の選択分布

各区画への代表通常位置と代表忌避位置の選択者数を図1に示す。

図2には、通常位置および忌避位置の選択分布を比率（%）で図示する。左が代表位置（U, A）、右が三選択位置（3U, 3A）である。

代表位置よりも三選択位置の分布の方がやや広がりが見られるものの、基本的な分布のパターンに変化はなく、以前の調査結果とも共通している。

特に忌避位置は、以前に見出された分布型に酷似して6ヶ所に集中した左右対称の特徴的なパターンを示している。最も忌避している者が多いのは区画14で86名（54.1%）である。三選択位置（3A）では、区画13・15にも忌避者が多いが、代表位置に区画14を選択したものが13・15をつづいて忌避している場合が多いことから、13・15は14と同じ動機（理由）で忌避されているのではないかと推定できる。

	← 左							教 卓	右 →									
前 ↑ 後 ↓	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	(10)	(1)	(1)	(86)	(0)	(0)	(18)	(0)	(2)	(4)	(0)	(0)	(2)	(3)	(5)	(2)	(2)	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(10)	(7)	(4)	(0)
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(9)	(7)	(4)	(3)	
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(17)	(0)	
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	
(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(17)	(34)	
・1	・2	・3	・4	・5	・6	・7	・8	・9	・10	・11	・12	・13	・14	・15	・16	・17	・18	
17	22	21	17	28	36	18	119	21	1	1	101	0	0	0	35	159	159	

図1. 各座席区画への通常位置および忌避位置（カッコ内）の選択者数

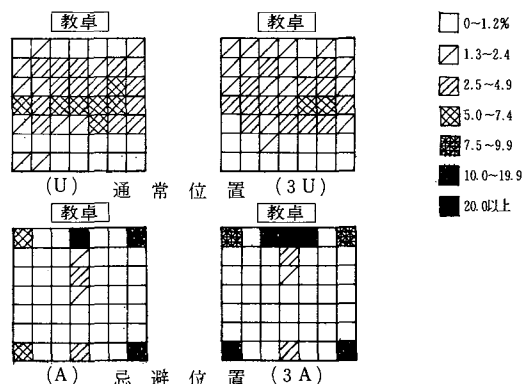


図2. 通常位置（U, 3U）と忌避位置（A, 3A）の選択分布（UとAは代表位置、3Uと3Aは三選択位置）

〔2〕忌避理由の分析

1) 忌避理由項目への反応

代表忌避位置に対する忌避理由について、まず、各項目尺度への反応頻数を見る(表1)。24項目のうち、肯定的反応(尺度7, 6, 5)の割合が最も多いのは、⑧「先生の陰になって黒板の字が見えにくい」(67.9%)で、次に⑦「落ちつかない」(66.7%),さらに②「神経が疲れるので」(62.3%)と④「黒板を見るのに首が疲れる」(62.3%)などが続いている。

座席忌避の理由に、その座席位置のもつ受講上の物理的環境条件の悪さ(黒板の見えにくいなど)と精神的不安定感(落ちつかない, 神経が疲れる, など)をあげる者が多いといえる。これは、通常位置の選択理由に、黒板の見やすさや先生の声の聞きとりやすさ, などの受講上の物理的環境条件の良さと、落ちつきや気楽さなどの精神安定感をあげる者が多かったこと(北川, 1982)と表裏の関係にある。

一方、肯定的反応が極端に少ないのは、⑫「後に人がいないのは不安なので」(3.8%), ⑭「入口に近いから」(6.3%), ⑮「寂しいので」(7.5%)であり、これら3項目は、肯定者の割合が10%以下で反応が極端に偏っているとみなし、因子分析の対象からは除外する。

2) 最適忌避理由

表1の右端の欄は、その項目を最適忌避理由項目として選んだ者の人数である。最も選択者が多いのは、⑩「一番前はきれいなので」の33名、次に①「黒板が光って見えないので」の20名、⑦「落ちつかない」の15名、⑬「人の頭で黒板がよく見えない」の11名とつづく。上位4項目で、全体の49.7%を占めるものの、他の項目にも選択者は広がっており、忌避理由にかなり個人差があることが示唆される。

表1. 座席忌避理由項目への反応

No.	項目	尺 度							反応の割合		最適理由項目として選んだ人数
		まったくそう だ	そ う だ	どちらか と い え ば そ う だ	わ か ら な い	ど ち ら か と い え ば ち が う	ち が う	ま つ た く ち が う	反 肯 定 的 反 応	反 否 定 的 反 応	
	座席忌避理由	7(点)	6	5	4	3	2	1	7+6+5	3+2+1	
1	黒板が光って見えないので	29(人)	22	19	13	25	39	12	44.0%	47.8%	20人
2	神経が疲れるので	15	45	39	28	5	25	2	62.3	20.1	9
3	周囲が気になって集中できない	4	14	27	17	34	51	12	28.3	61.0	0
4	黒板を見るのに首が疲れるので	25	36	38	12	18	26	4	62.3	30.2	8
5	先生とよく目が合うので	15	19	35	17	24	37	12	43.4	45.9	2
6	まわりにさわぐ人が多いので	3	8	8	28	22	73	17	11.9	70.4	7
7	落ちつかない	17	42	47	18	12	20	3	66.7	22.0	15
8	先生の陰になって黒板の字が見えにくい	19	45	44	16	17	13	5	67.9	22.0	8
9	目立つのはいやだから	7	31	33	24	20	29	15	44.7	40.3	6
10	部屋の隅はきれい	11	19	18	21	27	41	22	30.2	56.6	6
11	みんなに見られている感じがする	3	13	24	21	22	48	28	25.2	61.6	1
12	内職や居眠りができないので	3	9	25	33	24	42	23	23.3	56.0	3
13	人の頭で黒板がよく見えない	16	19	21	8	29	47	19	35.2	59.3	11
14	先生にノートをのぞかれたり、聞かれたりする	8	15	41	23	16	38	18	40.3	45.3	7
15	とりのこされた感じになる	2	6	11	20	27	62	31	11.9	75.5	2
16	一番前はきれいなので	32	32	32	10	10	30	13	60.4	33.3	33
17	寂しいので	1	4	7	18	24	69	36	7.5	81.1	0
18	目が悪く黒板の字が見えないので	8	5	11	11	12	72	40	15.1	78.0	5
19	先生のつばがかかると	10	22	25	25	18	39	20	35.8	48.4	2
20	眠くなってしまうので	4	11	24	19	24	57	20	24.5	63.5	2
21	後に人がいないのは不安なので	0	4	2	13	19	78	43	3.8	88.1	0
22	チョークの粉が飛んでくるので	18	29	47	7	13	31	14	59.1	36.5	4
23	先生の話がききとれないから	15	15	19	11	16	57	26	30.8	62.3	8
24	入口に近いから	2	3	5	8	20	74	46	6.3	88.1	0

3) 忌避理由の因子分析

忌避理由21項目の因子分析は、前報告(1982)に用いた方法に準じて行なった。

バリマックス基準を用いたオーソマックス回転解のうち、同一項目で2つ以上の因子に大きな負荷量が重なる項目が少なく、他の指標との整合性や解釈可能性が大きいのと思われる3因子解を採用した。この3因子により、全分散の48.2%を説明できる。バリマックス回転後の結果を表2に示す。

次に、1つの因子に.500以上の因子負荷量を持ち、他の因子には.400未満の負荷量しかもたない代表的な項目を列挙して因子の解釈を行なう。

第I因子に高い負荷量をもつ項目は、⑭「先生にノートをのぞかれたり、聞かれたりする」(.770)、⑨「目立つのはいやだから」(.746)、⑤「先生とよく目が合うので」(.741)、⑫「内職や居眠りができないので」(.713)、⑪「みんなに見られている感じがする」(.675)など9項目である。これらの項目はあきらかに最前列左右中央の教卓に最も近い位置(通称「かぶりつき」)を忌避している理由群と想像されるので、第I因子を「教師近接区域忌避」の因子と解釈する。

第II因子の項目は、⑳「先生の話がききとれないから」(.756)、⑮「とりのこされた感じになる」(.705)、⑥「まわりにさわぐ人が多いので」(.681)、⑬「人の頭で黒板がよく見えない」(.678)など8項目である。これらの項目は、教師から離れた位置のもつ不都合さを表明していると考えられるので、第II因子を「後列・周辺区域忌避」の因子と名づける。

第III因子には、⑧「先生の陰になって黒板の字が見えにくい」(.764)、④「黒板を見るのに首が疲れるので」(.699)、①「黒板が光って見えないので」(.554)など4項目が属する。これらの項目は、黒板の見えにくさを訴えていると推測できるので、第III因子を「黒板難視区域忌避」の因子と命名する。

表2. 座席忌避理由の因子分析 (バリマックス回転後の結果, N=159)

No.	項 目	因 子 負 荷 量			コミュニティー
		第I因子	第II因子	第III因子	h <sup>2</sup>
14	先生にノートをのぞかれたり、聞かれたりする	.770	-.085	.072	.606
9	目立つのはいやだから	.746	.013	-.100	.567
5	先生とよく目が合うので	.741	-.183	-.046	.584
12	内職や居眠りができないので	.713	-.030	-.198	.549
11	みんなに見られている感じがする	.675	.137	.062	.478
16	一番前はきれいなので	.657	-.369	.018	.568
19	先生のつばがかかるので	.636	-.068	.167	.437
22	チョークの粉が飛んでくるので	.620	-.321	.274	.562
7	落ちつかない	.217	.047	.205	.091
23	先生の話がききとれないから	-.299	.756	-.015	.661
15	とりのこされた感じになる	.062	.705	-.080	.508
6	まわりにさわぐ人が多いので	-.096	.681	.056	.475
13	人の頭で黒板がよく見えない	-.366	.678	.094	.602
3	周囲が気になって集中できない	.157	.610	.144	.417
18	目が悪く黒板の字がよく見えない	-.173	.587	-.078	.381
20	眠くなってしまうので	.195	.510	-.137	.317
10	部屋の隅はきれいな	-.189	.452	.215	.286
8	先生の陰になって黒板の字が見えにくい	.025	.086	.764	.591
4	黒板を見るのに首が疲れるので	.026	-.126	.699	.506
2	神経が疲れるので	.416	-.106	.560	.498
1	黒板が光って見えないので	-.310	.207	.554	.446
	固 有 値	4.565	3.556	2.009	10.129
	寄 与 率 (%)	21.736	16.933	9.566	48.235

〔3〕忌避理由と忌避位置

1) 忌避理由と忌避位置の間の相関

各忌避理由項目の得点と代表忌避位置から算出された座席位置指標との間の相関係数を表3に示す。

表3より、第I因子項目は、忌避位置の前後性、左右端性および対教師距離との間に負の有意な相関が認められる。すなわち、前列で、左右の中央で、教師に近い位置を忌避する者ほど第I因子項目を肯定している。

第II因子項目は、第I因子項目とは逆に、前後性、左右端性および対教師距離との間に正の有意な相関が認められるものが多い。後列で、左右端列で、教師から離れた位置を忌避する者ほど第II因子項目を肯定している。

第III因子項目と忌避位置指標との間には、必ずしも一貫した関係が認められない。項目②は第I因子項目に似た関係を示し、項目①はむしろ、第II因子項目に近い。

2) 忌避位置と忌避理由得点

図3は、各忌避位置選択者の忌避理由得点を3因子に分けて各忌避位置に配置して表示したものである。(注1) ただし、各因子ともに上位4項目の平均値である。

図より、第I因子項目の得点は最前列左右中央(区画14)を忌避している者に特徴的に高く、第II因子項目は、最後列(区画71・74・77)の忌避に対応している。第III因子項目は、最前列の左右の端(区画11・17)に特に得点

表3. 忌避理由得点と忌避位置指標の間の相関係数 (N=159)

因子	項目	項目			
		座席忌避理由	前後性 (AFB)	左右端性 (ALS)	対教師距離 (AT)
第I因子	14	先生にノートをのぞかれたり、聞かれたりする	-.448***	-.398***	-.506***
	9	目立つのはいやだから	-.340***	-.304***	-.380***
	5	先生とよく目が合うので	-.378***	-.496***	-.484***
	12	内職や居眠りができないので	-.367***	-.348***	-.423***
	11	みんなに見られている感じがする	-.366***	-.323***	-.410***
	16	一番前はきらいなので	-.677***	-.502***	-.678***
	19	先生のつばがかかるので	-.317***	-.334***	-.389***
第II因子	22	チョークの粉が飛んでくるので	-.592***	-.384***	-.610***
	7	落ちつかない	.077	-.079	.031
	23	先生の話がききとれないから	.551***	.024***	.521***
	15	とりのこされた感じになる	.356***	.119	.322***
	6	まわりにさわぐ人が多いので	.331***	.097	.300***
	13	人の頭で黒板がよく見えない	.588***	.301***	.573***
	3	周囲が気になって集中できない	.179*	.020	.127
第III因子	18	目が悪く黒板の字が見えにくい	.394***	.235**	.392***
	20	眠くなってしまうので	.098	.042	.076
	10	部屋の隅はきらい	.240**	.365***	.314***
	8	先生の陰になって黒板の字が見えにくい	-.012	.133	.047
第IV因子	4	黒板を見るのに首が疲れるので	-.134	-.009	-.096
	2	神経が疲れるので	-.222**	-.160*	-.232
	1	黒板が光って見えないので	.013	.488***	.200**
	17	寂しいので	-.033	.024	-.033
第V因子	21	後に人がいないのは不安なので	.057	-.015	.025
	24	入口に近いから	.125	.201**	.160*

\* P < .05      \*\* P < .01      \*\*\* P < .001

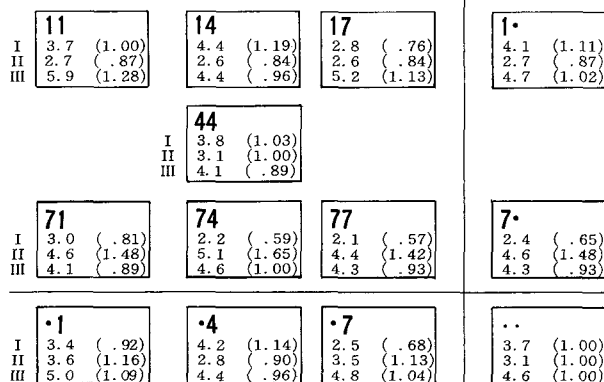


図3. 各忌避位置における因子毎の忌避理由得点 (各因子上位4項目の平均値。カッコ内は全平均に対する比。)

が高いことがわかる。なお、区画44は第I因子の項目の得点が相対的に高く区画14に似た忌避理由をもっていると考えられる。

3) 忌避位置と最適忌避理由

各忌避位置選択者の最適理由項目数を3因子に分けて各忌避位置毎に表示する(図4)。

第I因子項目を最適理由として選択している者は区画14に、第II因子項目は区画71・74・77に、第III因子項目は区画11と17の位置に、相対的に多いことがわかる。

また、図4においても、区画44は第I因子項目選択者の割合が多い。従って、忌避位置としての区画44の位置は、忌避理由からは区画14と同様に扱ってよいと思われる。

忌避理由と忌避位置の関係から、忌避位置は忌避理由の3因子と対応して、最前列左右中央区域(第I因子)、最後列区域(第II因子)および最前列左右端列区域(第III因子)の3区域に分けられることがわかった。

〔4〕忌避位置と通常位置

忌避位置と通常位置の関係を3区域に分けて図に示す(図5-a・b・c)。図5では、それぞれの区画を代表忌避位置として選択した者の三選択通常位置の分布(%)を、全三通常位置分布(%)との差の値で示したものである。(注2)

忌避位置が区画14の場合(図5-a)は明らかに後列および左右の端列に分布が相対的に多い。区画71・74・77を忌避している者(図5-b)は前列の左右中央部に多く分布している。また、区画11・17の忌避者の通常位置(図5-c)は右中央部の前後中央部に多く分布している。このことは、忌避位置と通常位置の間の相関表(表4)においても数量的に確認できる。

これらのことから、忌避位置は通常位置とは正反対の性質をもった座席位置と結論してよい。

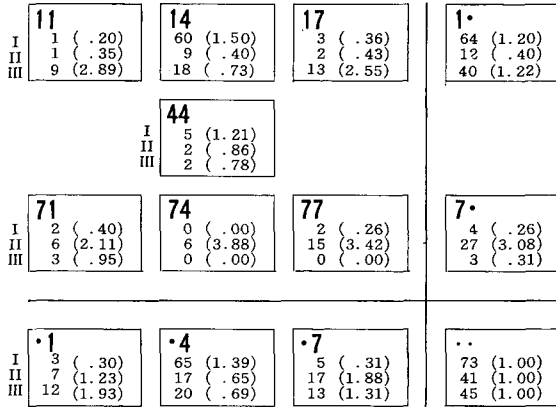


図4. 各忌避位置における因子毎の最適忌避理由項目選択者数  
(カッコ内は、3因子間の比率について、全体での比率との比の形で表現したもの)

表4. 忌避位置と通常位置の間の相関係数 (N=159)

		通	常	位	置
		前後性 (UFB)	左右性 (UL)	左右端性 (ULS)	対教師距離 (UT)
忌避位置	前後性(AFB)	-.279***	-.015	-.024	-.282***
	左右性(AL)	-.075	-.021	-.184*	-.130
	左右端性(ALS)	-.171*	-.089	-.323***	-.277***
	対教師距離(AT)	-.273***	-.057	-.129	-.309***

\* p < .05      \*\*\* |p| < .001

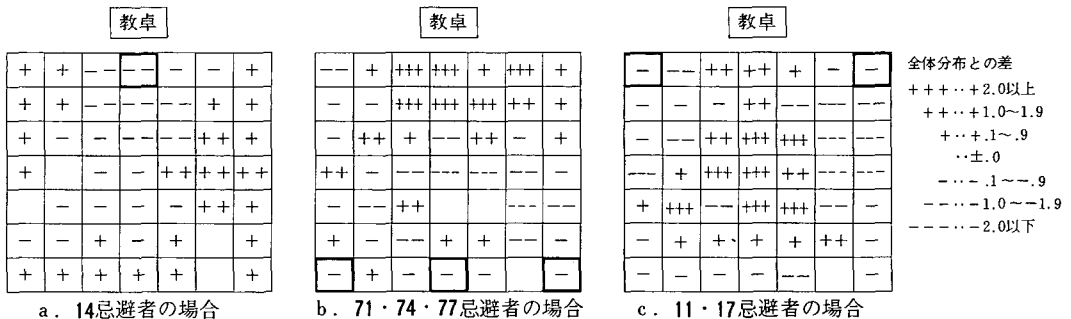


図5. 各忌避位置選択者の三通常位置選択分布

## 考 察

### 〔1〕忌避位置の特徴について

以前のデータから見出された忌避位置の2つの特徴は今回のデータからも確認された。

忌避位置の選択分布は、三選択をさせた場合であっても、基本的には、最前列・最後列・左端列・左右中央列・右端列の5列のなす6交点(区域)が集中的に忌避される特徴をもつと結論づけてよい。

選択された忌避位置には個人差が反映しているものの、個人内では、忌避位置は通常位置とは反対の性質(方向性と強さ)をもった座席位置として選択されている。従って、通常位置選択と忌避位置選択には、その個人の内的要因が表と裏の関係で作用しているものと考えられる。教室の各座席位置は、物理的には等価のように見えても、そのうちの1つの選択をせまられている学生にとって、心理的には全く異なった好悪感情をひきおこすのであろう。ある席には強く引きつけられ、別な席には強く反発を感じ、またある席にはやや抵抗を感ずるといのように、学生にとって、各座席位置は好悪感情の上で序列がつけられ、ヒエラルキーを形成しているものと考えられる。日常の座席行動には、正の好悪感情(指向性)が通常位置として客観的行動上に表出されているが、その裏で負の好悪感情が座席選択に影響を及ぼしていることを見逃してはならないであろう。

「教室の中で学生の選択しうる座席位置は、学生の内的要因と教室の座席行動空間に働く外的要因からなるいくつかの変数から予測できるであろう」というのが筆者の仮説である。その変数を見出す手段として、また、次の項で論ずるように、学生の座席位置の選択範囲をより限定して予測するためにも、忌避位置は通常位置とともに有効な座席行動指標になりうると考えられる。

### 〔2〕忌避理由の因子分析から座席位置の構造化へ

忌避位置6区域に対する忌避理由は一様ではなかった。因子分析によって忌避理由は3因子に分けられ、さらに、その3因子に対応して忌避位置が3区分されることが判明した。すなわち、教室の座席位置に対する忌避性は、教師の直ぐ前の位置(最前列左右中央)、教師から最も離れた位置(最後列)および黒板の見えにくい位置(最前列の左右の隅)の三位置に対する負の指向性として類型化できるのである(図6)。

昨年(1982)得た結果と合わせると、座席位置への正負の指向性が、ともに選択理由の因子構造と座席位置の空間的構造とが整合して、それぞれ3種に類型化できたことになる。そこで、もし、ある学生の座席位置への正負の指向性について、各因子次元への関与度が測定できるならば、その学生の選択しうる座席位置はかなり限定されるのではないかと期待される。例えば、「受講積極性」の次元のみに強い正の指向性を示し、同時に、「教師近接区域忌避」の次元のみに強い負の指向性を示す学生は、教師の直ぐ前の位置を避けながら、その周辺の前寄りの位置を選択する確率が高いと予想できる。さらに、そのような学生のパーソナリティーは、課題への達成意欲の強さとともに、対人的消極さを特徴とするのではないかと推定できるかもしれない。座席位置への指向性と個人内要因の関係をさらに検討したい。

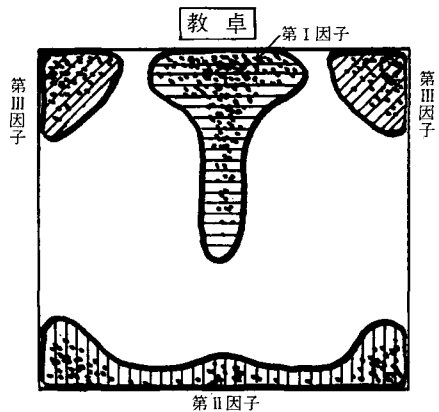


図6. 3因子による忌避位置の区分  
(若干の広がりを予想した模式図)

このように、通常位置と忌避位置から座席位置空間の心理的な構造を理解することは、座席行動の規定因を確定する上で、有効な手段となるにちがいないと思われる。

## 要 約

教室の座席選択における忌避位置および忌避理由の分析から次のことがわかった。

1) 忌避位置は、最前列・最後列・左端列・左右中央列・右端列の5列による6交点に選択が集中する特徴的な分布を示す。

2) 各個人の忌避位置は通常位置と正反対の性質をもった座席位置である。

3) 忌避理由の因子分析から3因子を抽出し、それぞれ「教師近接区域忌避」、「後列・周辺区域忌避」、「黑板難視区域忌避」の因子と解釈した。

4) 忌避理由の各因子と忌避位置の関係から、第Ⅰ因子は最前列左右中央忌避と、第Ⅱ因子は最後列忌避と、第Ⅲ因子が最前列左右端列忌避と対応しており、教室の忌避位置が3区域に区分できることが判明した。

各個人の座席行動空間の心理的構造を解明し、座席行動の規定因を確定する上で、座席位置に対する正負の指向性の測定は有効であろうと考察された。

〈注〉

(注1) 図3の代表忌避位置には、区画12を区画11に、区画13・24を区画14に、区画34を区画44に代表させている。図4においても同様である。

(注2) 図5の代表忌避位置には、区画12を区画11に、区画13・24・34・44を区画14に代表させている。

## 引 用 文 献

- 北川歳昭 1979 教室の座席行動(3) — 座席位置と好悪感情 — 中国四国心理学会論文集, 12, 97.  
北川歳昭 1980 座席行動の研究(Ⅱ) — 教室内の座席行動と性格特性 — 中国短期大学紀要, 11, 32-45.  
北川歳昭 1982 座席行動の研究(Ⅲ) — 座席位置とその選択理由 — 中国短期大学紀要, 13, 41-48.

〈付 記〉

本研究のデータ解析には岡山理科大学情報処理センターの大型計算機を利用した。使用を許可してくださった塚本幸雄センター所長および懇切なアドバイスをくださったセンター職員の皆様に感謝いたします。